

第57回 テレビ草創期「連続活劇」の 陰の殊勲者、小川寛興

私の事務所のある東京・品川の大井町では、毎年、夏休み最後の週末に「大井どんたく夏まつり」が開催され、土曜の夜は『品川音頭』をメインとした盆踊り大会で賑わいます。

『品川音頭』は、昭和30年代から地元の旗の台、小山（洗足）駅近くで過ごした服部良一が作・編曲、こうした功績もあって、服部は昭和62年に品川名誉区民に選ばれています。名誉区民は服部が6人目にあたり、その28年後、7人目に選ばれたのが、服部を師とし、服部のもとで10年近くも修業・研鑽を積んだ作曲家、小川寛興でした。

小川寛興の名前は知らなくても、昭和20年代生まれの男の子なら誰もが一度は小川が作曲した『月光仮面』『七色仮面』『快傑ハリマオ』の主題歌を口ずさんだことでしょう。

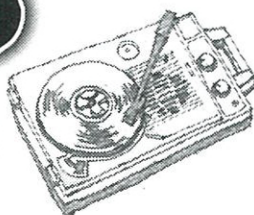
小川の名誉区民顕彰は、テレビ草創期の子供向けドラマ主題歌創作によるものでなく、区民のためのミュージカル制作など多岐にわたり品川

区に貢献したことによるものですが、私のような世代の男にとっては「正体不明の主人公」が活躍する3大冒

名曲カルテ

昭和歌謡と いまでも

堀井六郎
絵 松本浦



険活劇のすばらしい主題歌を創作してくれたことだけで、「国民栄誉賞」に匹敵すると最肩してしまいます。年甲斐もなく、前奏を耳にしただけで今でもワクワクしてしまうのは私だけではないでしょう。実は、この前奏部にこそ、小川の創作の秘密と努力の跡がありました。小川の流儀は、編曲も自らの手で行なうというもので、これは、間近で見ていた服部に倣ったもので、内弟子時代にその姿勢を学んだ小川は、与えられた歌詞にメロディーをつけることで作曲家としての役割が終了したとは考えず、主旋律とは別に印象的な前奏を用意し、冒頭の数秒間を聴いただけで子供たちがワクワクするような音楽を仕立ててくれたのです。

歌詞に左右されないこうしたメロ

ディーメーカーとしての資質は、昭和40年にレコード大賞作曲賞を受賞した『さよならはダンスの後に』歌・倍賞千恵子。メロディー先行で作られた名曲。『美少女戦士セーラームーン』主題歌の原曲でしょう。などの歌謡曲をはじめ、『おはなはん』『細うで繁盛記』などのテレビ番組テーマ曲、邦画の世界においても遺憾なく発揮され、映像本編に期待をわかせる数多くの名曲を提供してくれました。

そういえば、森下仁丹提供の『快傑ハリマオ』の後番組『恐怖のミイラ』のテーマ曲（インスト）も小川の作品でしたが、私が当時小学1年生だった弟にその旋律を真似て聞かせただけで泣き出してしまったものでした。

昭和22年に服部の内弟子となり、独立後も服部が亡くなるまでのほとんどの期間、服部家の近くで時間と空間を供にした小川は、服部の精神を最も受け継いだ後継者の一人でしょう。小川は品川名誉区民の肖像写真が服部の隣に飾られることを何より喜びつつ昨年7月、鬼籍に入りました。享年92でした。